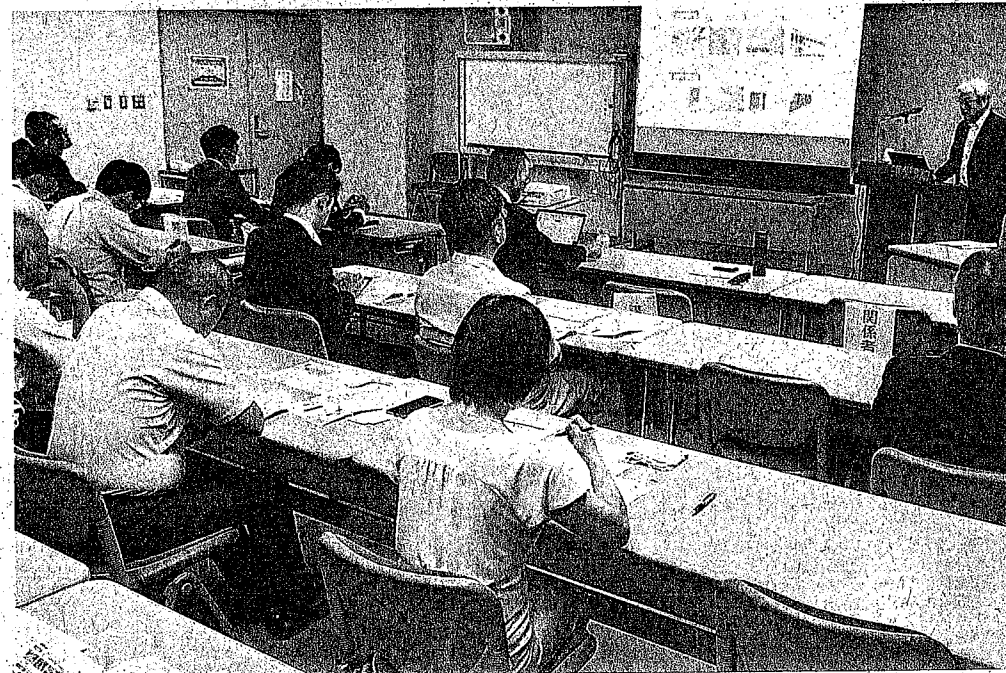


ナノテラス

仙台の放射光施設 稼働1年

本県中小に光



世界トップレベルの次世代放射光施設「ナノテラス」（仙台市）は稼働から1年が経過し、東北の中小企業の技術・製品改良などでも成果を上げている。本県企業の活用促進に向けたセミナーが22日、山形市の県高度技術研究開発センターで開かれ、参加者が新庄市の製造業の事例を通して、活用法や支援策に理解を深めた。

（大坪千絵）

同施設は「巨大な顕微鏡」とも呼ばれ、物質の性質をナノメートル（ナノは10億分の1）レベルで分析できる。東北大構内で、昨年4月に運用を始めた。仙台市や宮城県が利用料補助などの支援

策を展開しており、大企業だけでなく、本県を含む東北の中小企業も活用している。本県では建築用内外装金属パネル製造などを手がける山形メタル（新庄市、庄司正人社長）が活用しており、同社の今田弘昭取締役技術部長が成果を報告した。同社は不燃で劣化しない特徴を持つ金属パネルの開発を進めており、耐久性が向上する理由などを突き止めるためにナノテラスを利

山形でセミナー 製品開発活用、山形メタル（新）が紹介

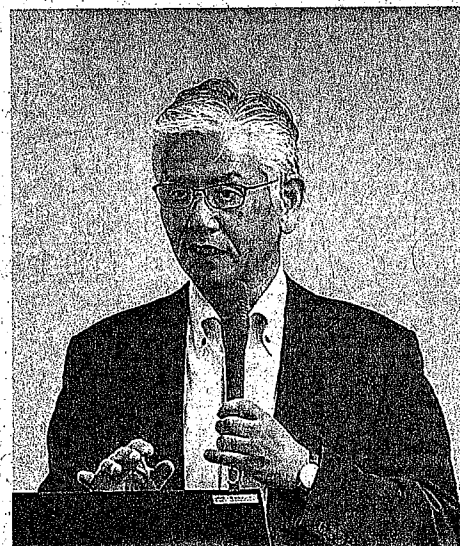
策を展開しており、大企業だけでなく、本県を含む東北の中小企業も活用している。本県では建築用内外装金属パネル製造などを手がける山形メタル（新庄市、庄司正人社長）が活用しており、同社の今田弘昭取締役技術部長が成果を報告した。同社は不燃で劣化しない特徴を持つ金属パネルの開発を進めており、耐久性が向上する理由などを突き止めるためにナノテラスを利

発の指針となり、品質管理にも活用できるデータが得られたことは大きな成果だ」と説明し、県工業技術センターによる伴走支援も心強かったとした。セミナーは県が主催し、製造業など23企業、団体の約60人が参加した。

県、補助金制度を創設

県内企業の活用を後押ししようと県は本年度、補助金制度を創設した。補助率は利用料など対象経費の3分の1以内で上限25万円。やまがた産業技術振興基金による助成金の採択を受けた場合は3分の2以内、50万円上限に引き上げられる。仙台市や宮城県、山形市の既存の支援制度と併用することも可能。問い合わせは県産業技術イノベーション課023(630)3034。

運営主体の高田理事長 「東北全体の財産」強調



施設の特長や活用事例を説明する 高田昌樹理事長

セミナーでは、ナノテラスを運営する光科学イノベーションセンター（仙台市）の高田昌樹理事長が施設の特長や活用事例を紹介した。高田理

計量科学やAI（人工知能）を組み合わせ、物質の性質を高精度、効率的に可視化、分析する。最先端の複合材料や航空宇宙、食品など多彩な分野で活用が進んでいる。高田理事長は本県には▽山形大が持つ知恵▽企業の高い技術力▽施設がある仙台との地理的な近さの強みがあるとし、「（企業が活用しやすい）オール山形のコンソーシアムをつくるなどし、山形ならではの勝ち筋をつくってほしい」と語った。